飯田市 歴研ニュース
News Letter No.132
The Iida City Institute of Historical Research
2024年10月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

第 21 回 飯田市地域史研究集会

国史跡指定 10 周年記念　恒川官衙遺跡研究の最前線
―浮かび上がる古代伊那郡の役所　〈伊那郡衙〉―　を 開 催しました

９月７日・８日に「恒川官衙遺跡研究の最前線 ―浮かびあがる古代伊那郡の役所〈伊那郡衙〉―」をテーマとして、第 21 回飯田市地域史研究集会を飯田市教育委員会文化財保護活用課と共催で開催しました。今年は恒川官衙遺跡が国史跡に指定されてから 10 周年となります。長年の発掘調査に基づいた考古学の成果を踏まえながら、文献史学や建築史学からの検討を交差させて、古代律令国家のもとにあった伊那郡衙や下伊那の姿を考えることを目指しました。

１日目の会場の様子

１日目は講演２本と報告２本を行いました。田島公さん（東京大学名誉教授、歴史研究所顧問研究員）の講演「文献史料から見た史跡恒川官衙遺跡」では、文献史料に加え木簡や小字地名なども用いて、郡衙以前の評衙段階から検討し、都への貢納品の徴収・運搬や牧の運営における郡衙の役割が明らかにされるとともに、官僚制の導入（役人の出退勤管理）と寺院（郡寺）との関係といった新たな論点が提示されました。

また、羽生俊郎さん（文化財保護活用課）の報告「史跡恒川官衙遺跡 正倉院発掘調査の成果」では、発掘調査で顕著な成果を得た正倉に焦点を絞り、その最新の成果が報告されました。これをうけて海野聡さん（東京大学）の講演「郡衙正倉にみる在地の建築技術」では、全国各地での発掘調査の成果を踏まえ、建築史学の視角から、郡衙正倉の立地・空間・建築構造・荘厳性などを整理したうえで、恒川官衙遺跡の注目点が指摘されました。

さらに、この遺跡を未来へ引き継ぐための活動に取り組む地元・座光寺地区の田口博人さん（歴史に学び地域をたずねる会）には、会の紹介と史跡公園の整備に対する思いをお話しいただきました。その後、小林正春さん（前長野県考古学会長）や加藤友康さん（東京大学名誉教授）からもコメントをいただき、質疑応答・全体討論を行いました。

現地見学の様子

２日目には、恒川官衙遺跡と飯田市考古博物館の見学会を実施しました。２日間で延べ 137 人の参加がありました。今回の研究集会を通して、伊那郡衙の具体像を解明する手掛かりや今後の研究課題が浮き彫りになりました。成果は来年度刊行の年報で公表する予定です。

なお、開会式の中で飯田歴研賞 2024 の授賞式も行いました。受賞作品を次ページで紹介しています。

羽田 真也（歴史研究所研究員）

飯田歴研賞2024 受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に対し、飯田歴研賞をお贈りしています。2024年度は2つの作品が受賞され、9月7日・8日に開催された飯田市地域史研究集会において授賞式を行いました。受賞者のみなさまからのコメントを紹介します。

著作賞　山野晴雄『大正デモクラシーと地域民衆の自己教育運動―自由大学運動の研究―』

このたびは飯田歴研賞 という栄誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。 私が修士論文で自由大学運動をまとめるために初めて飯田を訪れたのが、今から 50 年以上前になる1972年のことでした。2022年には自由大学運動 100 年を記念して、上田と東京で記念集会が開催されましたが、この機会に私も、この 50 年間の自由大学研究をまとめなければと思い、近年の研究の成果も取り入れてまとめたのが本書でした。 この飯田・下伊那地域に設立された伊那自由大学の歴史については、その全体像をほぼ明らかにすることができたと考えています。また、自由大学運動を通して大正デモクラシーが地域社会レベルでどのように生まれ展開されていったのかの一端を明らかにすることができたと思っております。

飯田・下伊那地域の歴史を研究する者にとって、飯田歴研賞をいただいたことは、何よりの評価であり、今後の励みとなるものです。今後も、残された課題の研究を進めていきたいと考えています。

奨励賞　土井麦穂『夕陽に對す　祖父の漢詩にみる満州開拓の日々』

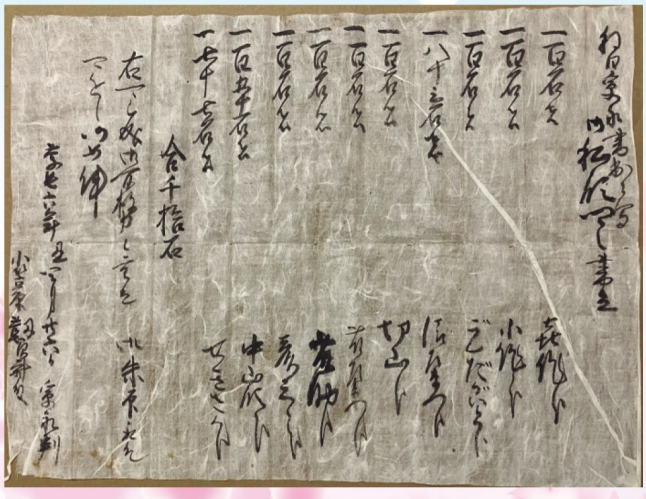
この度は 身に余る賞をいただき 心より感謝申し上げます 。飯田市歴史研究所を訪れて祖父の名前を見つけた ことから、祖父が満州開拓に深く関わってい たことや、漢 詩を詠 んでいたことを初めて知り、祖父がどういう人 だったのか 、満州開拓とは何か 、知らなければ ならないと思いました。所属している短歌 の会の先輩方や、飯田市歴史研究所の 先生方に助けていただき、また　励ましていただきながら、祖父の漢詩を読み解 いてくることができました。お世話になった皆 様に感謝の気持ちでいっぱいです。 祖 父の満 州での日々をたどって、その実 態が 見えてきたときに、 事実そういう時代 があった こと、日本が戦争のさなかにあった　と実感できるようになりました 。その 歴史の延 長線上に自分が いて今の時代を 生かされてお り、未 来へ繋 がってい くのです 。しっかりと 歴史に向き合 い、これからも 学び続けていきたいと思 っています。 祖父は私に大きなものを残して いって くれました。

史料紹介　小笠原長巨の知行割り

飯田市伊豆木の旧小笠原家書院は、 寛永初年（1624）頃伊豆木小笠原家初代の長巨が建てたものです。書院に併設された小笠原資料館には、 小笠原家の文書が保管されています。

右下の史料は、 伊那郡の朝日受永が慶長6年（1601）4 月 26 日に小笠原長巨宛てに出した知行割りです。知行割りとは、 大名や旗本に知行地を割り当てることです。 長巨は、 この知行割りで伊豆木村のうち 1,010 石を与えられました。 この文書の本書は、 後に知行改めのため幕府にあげられました。 現在残っているのは、 その際に作成されたと考えられるものです。 写しとはいえ、 伊豆木村が領知として与えられた証拠であるため大切に保管されました。

この知行割りを他の大名、 旗本に出されたものと比べると異なる点が2つあります。 一つは百姓 10 人の持高の合計が与えられていることです。 百姓とその持高で示されるのは、 定物成という伊那郡独特の貢租のかたちに似ています。 もう一つは百姓のうち7人の持高が 100 石であることです。 同じ持高、しかも 100 石というきりのよい数字の持高の百姓が 7 人もいることは通常ならありえません。 何らかの意味を持っていると考えられます。



御私領郷之書立（小笠原資料館蔵）

このように小笠原長巨の知行割りは、 検討が必要なことがありますが、近世初頭の伊那郡の地域編成を考える上で重要な史料です。

前澤　健（歴史研究所特任研究員）

地域史ゼミ募集

伊藤　悠（歴史研究所研究員）

地域史ゼミでは、1924 年の下伊那で起きた治安警察法違反事件（LYL 事件）を題材として、関連する史料を読解し、また、周辺の文献を輪読することを予定しています。LYL は大正期の下伊那における社会主義運動の中核的な組織として活動していたグループでしたが、治安警察法が禁じた秘密結社に該当するとして 1924 年に関係者が一斉検挙されました。

公判後帰途についた LYL メンバーの集合写真（羽生三七史料 C-6、1924 年、歴史研究所所蔵）

歴史研究所所蔵の羽生三七文書に「治安警察法違反事件刑事記録」（第 1 ～ 5 分冊）という史料があります。ここには LYL 事件の予審段階における被告人や証人等に対する各調書類が含まれており、同事件の記録としても、この地域における刑事記録史料としても貴重なものです。このうち第 1 分冊については、今年 5 月に市民有志の会が開催した LYL 運動 100 周年記念集会に合わせて、史料の翻刻集（活字起こし）が発行されています（LYL 運動 100 周年記念事業実行委員会編『治安警察法違反事件刑事記録 第一冊 翻刻集』2024 年）。地域史ゼミでは同史料の第二分冊以降の翻刻を参加者の皆さんと進めていく予定です。また、同時期の下伊那社会を対象とした文献を読み合わせることで理解を深めたいと思います。

～ ご関心のある方のご参加をお待ちしております ～

中学生の職場体験学習

竹村　雄次（歴史研究所特任研究員）

飯田東中学校の 2 年生 1 名の職業体験学習を、6 月 26 日・27 日に実施しました。体験内容は、26 日が明治から昭和期の新聞を使っての歴史調査と GIS を用いた古地図情報の処理作業。どちらも地道な根気がいる作業でしたがよく取り組んでいました。とくに地図作業は、普段からタブレットやパソコンなどに慣れ親しんでいるとのことで、実際にパソコンをデーター処理に使う体験は、興味を持って行うことができました。作業内容は、明治時代初期の手書きの地割図を現在の地図に貼り付けていくというもの。飯田伝馬町から桜町の街並みやその周辺地区の景観を再現しました。現在、住宅地となっているところが 150 年ほど前には田畑地だったことや街道に枡形が残っていたことなど作業を通して知ることができました。多くの発見のある体験になりました。このような新しい歴史調査の方法が、中学生が持っていた歴史の知識を発展させて、新たな思考を行っていくうえで、有効な方法になることがわかりました。

27 日は、登録を完了した市の非現用文書を、愛宕保管庫への搬入する作業に参加してもらいました。暑い日となり、また、重い史料の入った保存箱運で、慣れない作業のようでしたが、よく気を働かせて手伝ってくれました。また、同日の午後は、史料現状記録作業に参加してもらいました。史料を一点ずつ保存袋に入れてもらいましたが、江戸時代の史料だと聞くと、緊張感を持って丁寧に扱ってくれました。

飯田アカデミア2024

第105講座　【講座名】
歴史資料散逸の要因と救い方 ―長野県内での活動を通じて―

【講師】
西村慎太郎さん(国文学研究資料館研究部教授)

第1講　13:30～15:00　「古文書散逸の現状と保存活動」
第2講　15:15～16:45　「被災地から立ち上げる歴史資料保全」

【日時】
2024年11月30日(土)
13:30～16:45
【会場】
飯田市役所C棟3階会議室

【要旨】
歴史資料・文化財のうちで、歴史に関心の乏しい人びとにとって最も興味を呼び起こさないものが古文書であろう。他の文化財が即時的に「きれい」「面白い」「大きい」「ブサイク」と反応できるのに対して、古文書は読解・判読というアクションが不可欠であり、「読めない」と匙を投げてしまいかねない。それら古文書は多くの地域で散逸が進んでいる。今回はその散逸の要因を検証しつつ、その対応策について、立科町でNPO法人歴史資料継承機構じゃんぴんが行っている活動や東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故被災地での「大字誌」編纂から考えてみたい。近年では、パブリック・ヒストリーと称される新たな歴史学の潮流である。

【申込方法】
電話・Fax・メールのいずれかで受講方法と電話番号をお知らせ下さい。
オンライン受講の方は郵便番号と住所をお知らせください。
【締切日】
オンライン11月15日　会場11月28日
資料代　500円

定例研究会

丸山教、実行教・実行会と報徳社
―明治期下伊那農村の信仰と思想―

報告者　竹村雄次(歴史研究所特任研究員)
開催日　10月26日(土) 14：00～16：00
会 場　歴史研究所　研修室

大正期の下伊那における入会権解消（仮）

報告者　伊藤悠(歴史研究所研究員)
開催日　11月16日(土) 14：00～16：00
会 場　歴史研究所　研修室

※聴講をご希望の方はお電話ください

歴研　ゼミ&ワークショップ
10月・11月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ
担当：羽田 真也(研究員)
10月9日・23日／11月13日・27日
(第2・第4水曜日) 18:30～20:30

建築史ゼミ
担当：岩田 会津(研究員)
10月18日・11月15日
(第3金曜日) 18:30～20:30

地域史ゼミ
担当：伊藤 悠(研究員)
10月10日／11月14日
(第2木曜日) 13:30～15:30

思想史ワークショップ
市民の皆さんが自主的に学び合う場
10月2日・16日／11月6日・20日
(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ
担当：本島 和人(調査研究員)
第153回 10月5日／第154回 11月2日
(第1土曜日) 10:00～11:40

近現代史ゼミ
担当：田中 雅孝(調査研究員)
10月26日／11月16日
(第4土曜日)　10:00～11:40

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

開所時間：午前9時～午後5時　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail：iihr@city.iida.nagano.jp までお願いします